

図書館だより

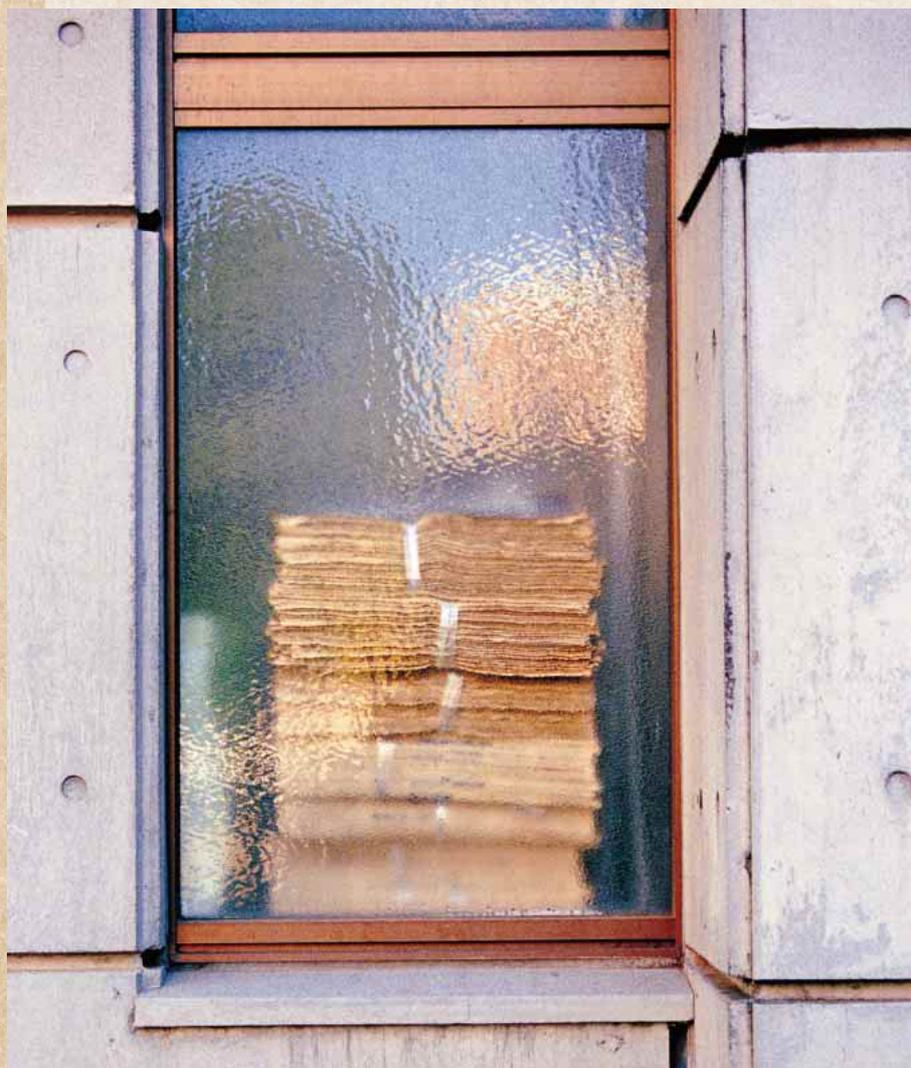
第26号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

- 目次 - contents

“図書館”で思うこと	2~3p
「図書館と私」	北添 徹郎
「文字・活字文化 その再生フォーラムを目指して」	鳥谷 孝男
これは読んで欲しい先生のお薦め本 ~3階編~	4~5p
あなたのお悩み解決し隊!!(第2回:CD ROMで悩みを解決!)	6p
Library Report	7~8p



図書館の一風景

“図書館”で思うこと



大学院国際文化研究科教授 北添 徹郎

若い頃図書館はあまり好きな所ではなかった。厳めしい書籍がずらりと並んでいて威圧を感じ、勉強しろと強制されているようであった。僕にとって図書館は専門書の貯蔵庫の意味でしかなく、目的の文献を探して、それをコピーし持ち帰るためにあった。

図書館に対するこの姿勢が変わったのは、15年ほど前、6ヶ月間アメリカの大学に招聘されて滞在したときである。退屈するとよく図書館に行った。目的はコンピュータのソフトを体験することであった。図書館にはたくさんのコンピュータが並んでいて、図書閲覧の机と混在していた。そうしたある日ソフトを動かしているとポタポタ・ジョローという音がしてきた。弁当の水筒が漏れているのかと下を覗いた。ふと、顔を上げるとすでに学生たちが寄ってきていてニヤニヤ笑ってる。水漏れ音を出すソフトに引っかかったのであった。いつも無関心な様子の学生たちが、こういうときの反応の素早さには感心した。このように図書館は割合リラックスした雰囲気があった。学生たちはリュックサックなど背負ってやってきたりして、図書館は結構利用されていた。宿題やレポートは図書館でやると決めているらしい。自分の部屋はプライベートなところ、図書館は宿題などとするところ、遊ぶところは遊ぶところと、時間と場所をきちんと分け、それぞれの場所では思い切りエネルギーを燃焼させるという風であった。

15年ほど前、宮崎大学に着任した頃から、私は図書館をよく利用するようになった。そこでは、電話も鳴らないし、来客も来ないので、いつの間にか静かに仕事に熱中できる習性がついてしまった。私は図書館に漫然と行くことはなく、大抵の場合、決まった仕事を持っていく。仕事は論文を書くとか講義ノートを作るなど硬いものから、自分の趣味や遊びの「勉強」なども含まれる。仕事に疲れたら遊び、遊びに飽きたら仕事と、これらをサンドイッチのように交代させながら時間を繋いで行く。その合間には、面白そうな本を手にとって立ち読みもする。時には踏み台の上に腰を下ろし、時間を忘れて読みふけることもある。大学での講義の準備をしていると、新しいテーマを取り入れたい時がある。図書館でそれらのテーマを探っていくと、次々と新しい秘密の扉が開かれ、未知なる世界へ連れて行かれることがある。考えてみれば、われわれの一生をかけても知り尽くせない多くの世界が図書館には埋蔵されていることだろう。

鹿児島国際大学の図書館はすばらしい建物であり、大理石や丁寧に細工された木工の調度品に囲まれている。そのすばらしい場所から桜島を眺めながら、数万年突如として錦江湾の中に巨大な火の玉が炸裂し、原始の人々に襲いかかった場面などを想像してみたらどうだろう。この図書館には、数十万年の間の火山爆発や氷河期など苦難に満ちたホモサピエンスの足跡を辿った文献や、さらにはその歴史のなかから人類の未来をも暗示するような文献がひっそりと眠っているのかも知れない。そう考えると図書館は何と魅惑的な所ではないだろうか。



文字・活字文化 その再生フォーラムを目指して

経済学部教授 鳥谷 孝男

最近、直木賞を受賞した作家が、「若者の携帯の活用で、文章能力が向上しているのではないかと述べている記事に接した。であれば、携帯利用は、大いに歓迎されるべきであろう。他方、携帯漬けは、脳のある分野を退化させると、注意を喚起する向きもあって、携帯文化なるものは複雑である。

本学キャンパス内でも、歩きながらあるいは授業中、はたまたトイレの使用中心(?)でも、携帯操作に熱中している光景を目にする。ともかく、忙しそう。まるで、超多忙のサラリーマンが、雑踏の波を切りながら、着信発信の情報蓄積と加工に暇がないかのようなスタイルと同じではないか。

では、それだけ携帯操作に忙しい若者が、自分の精神活動を他者に伝達する知的能力を身に付けているかは、疑わしい。そんな機会に常日頃接しているが、やはりこれは、個人的レベルにとどめずに、組織的に検証する必要があるのではないか。

筆者が接する学生諸君は限られているが、この数年来、彼らに簡単な、基礎的知的関心の度合いを問うてきた。いくつかの例をあげてみよう。

読み書きであれば、「西瓜」、「秋刀魚」、「鯖」、「梅雨」、「大晦日」、が読めない。それでいて、「拉麺」などは読める。旧地名の「豊後」、「周防」、「安芸」、「摂津」、「駿河」、「相模」、はまったくのお手上げだ。「薩摩」、「大隅」が漢字で書けない。来年あたり「鹿児島」を書けない若者が出てくるかもしれない。試すのが怖くなる。

鹿児島県の白地図に、地名をおおよその所に印す例では、「指宿」の位置が、かなり曖昧な人が多いのに驚く。錦江湾をはさんで目の前にある「垂水」の位置がわからない人も多い。「大口」、「栗野」、「佐多」、「笠沙」、「龍郷」に至っては、ほとんどの学生が、その位置を記すことが出来ない。世界白地図では、「スマトラ」、「マラッカ海峡」、「イスラエル」、「イラク」、「ケープタウン」、「モンゴル」の位置がわからない。モスクワを日本の真北のシベリアあたりに印すのは、まだご愛嬌である。歴史上の人物で、島津斉彬、西郷隆盛の生きた時代が分からない。

設問事項一つ一つの、細切れ知識をあげつらって、どんな意味があると言われるかもしれない。しかし、その正答率が3割以下の若者が相当数いて、1割以下の者も珍しくないとなると、事態は深刻である。大学教育の前提となる、学習理解能力の基礎認識を見直す必要があるのではないか。

自分および自分を取り巻く社会を、時系列的にかつ空間的に把握することが「教養」の重要な分野であると考えれば、地名という字面を通して、共感能力、対人関係能力を培うことにつながると思うのだが...

さて、本稿の表題と図書館との関係である。どんなに情報のインターネット化が進んでも、出版・活字文化を放逐することにはならないだろう。そこに図書館の存在意義がある。ただそこを活字資料の倉庫としてはならない。そのためには、図書館を人と人との交流の場として機能させるべきであろう。百数十名の教員が教壇に立つだけでなく、学生諸君に読書案内のフリーマーケットを開いたら、さらに親しく活字文化圏に誘うことができるだろう。10月27日は文字・活字文化の日である。

これは読んで欲しい先生のお薦め本 ～3階編～

今回は、今年度新しく赴任された先生方に、3階フロアにあるお薦め本を紹介していただきました。あわせて視聴覚資料、新規継続雑誌もご紹介します。

AVコーナーより

『プロジェクトX』シリーズ
その時歴史が動いた
ユネスコ世界遺産 全33巻
詩とところ 全5巻

(谷川俊太郎ほか有名な詩人たちの作品を映像とともに朗読します。)

『学問と情熱』シリーズ

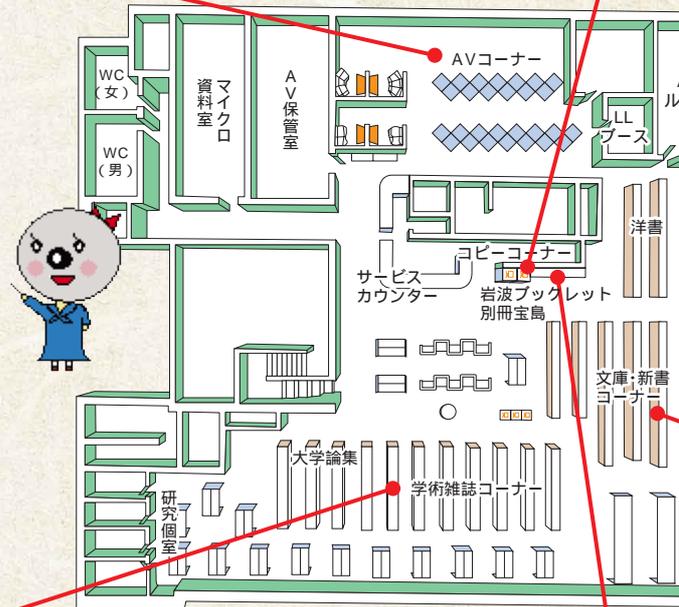
(南方熊楠、伊能忠敬、岡倉天心など、名前は知っているもその業績はわからないことがあります。このシリーズは、近代の知性を築いた「文化の巨星」たちを映像で綴っています。)



CD ROM端末

判例体系 CD ROM
現行法規
角川地名辞典・・・etc.

「判例体系」の特徴については



学術雑誌コーナー

各大学の論集のほかに、学術系の和雑誌・洋雑誌・中国雑誌があります。平成17年1月から購読が始まった雑誌の一部を紹介します。

和雑誌

- ・季刊 人間と教育
- ・貿易と関税
- ・女性&運動

中国雑誌

- ・中国現代文学研究叢刊
- ・当代文壇
- ・中国宗教



洋雑誌

- ・ Journal of post Keynesian economics
- ・ Antiquity
- ・ World archaeology
- ・ Cambridge archaeological journal
- ・ Focus
- ・ Oxford journal of archaeology

岩波ブックレットコーナーより

国際文化学部: 吉留久晴助教授推薦

『「学力低下」の実態: 調査報告』

(苅谷剛彦 ほか 著 / 岩波書店 / 岩波ブックレット, 5)
本書は、子どもの学力や学習の実態を正確に把握することから、実施・分析された学力調査報告です。本書から、学力の実態の公教育を見直す視点などを学ぶことができます。(372.1)

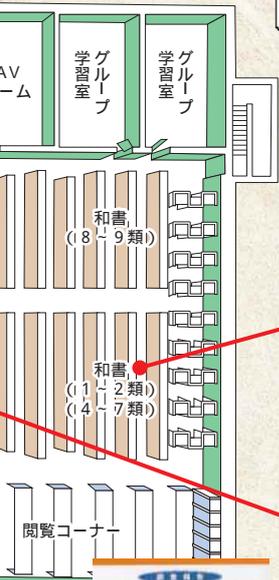
薄くてタイトルも見づらいシリーズですが、社会問題も多くあります。隣の「別冊宝島」もお薦めです。レポートに行き着いたら、何か良いヒントが生まれるかもしれません。

今回は特に紹介がありませんでしたが、この他にも関係、9類はご存じの方も多いでしょうが「文学」も、また、7類には音楽・美術などの「芸術」、6類にはいろいろな資料が集まっています。『ハリー・ポッター』シリーズはこちらにあります。

近々、第6巻が入りますので、楽しみに。

法律判例文献情報
世界大百科事典

解決し隊のページへ。



一般書架(2類:歴史)より

福祉社会学部:佐々木陽子助教授推薦

『ナチズムの記憶:日常生活からみた第三帝国』(山本秀行著/山川出版)

ナチズムを「よい時代だった」と回想するごく普通の人々、他方、厳然として存在したナチの人種絶滅計画、「劣等」市民抹殺計画。記憶の操作によって生じたこの両者の隔たりを人々の日常に探る本書は、写真や図版も多く読みやすいが、重いテーマを扱っている。(234.074//YH)

『第二の罪:ドイツ人であることの重荷』(ラルフ・ジョルダーノ著/白水社)

第一の罪はヒトラー政権下でおこしたドイツ人の罪、そして第二の罪は戦後、第一の罪を否定あるいは忘却しようとする罪、つまり人間としての方向性、「哀しむ能力のないこと」を指す。歴史的な重い課題である「過去の克服」を問いかける大作である。(234.075//G.2)

2類は歴史の本です。日本史、世界史だけでなく様々な歴史に関する資料があります。戦後60年を迎え、改めて歴史について考える時代になりました。歴史関係の資料を探すなら、こちらへ。



78)が必要であるという意図が
態とともに、義務教育段階
//KT)

頁を簡潔にまとめてあり
詰まった時にちょっと
んよ。

8類には「言語」
があります。
「産業」など幅広
リーズの原書も

文庫・新書コーナーより

国際文化学部:吉留久晴助教授推薦

『転機の教育』(朝日新聞教育取材班著/朝日新聞社/朝日文庫,あ4 93)

本書では、わが国の学力や学ぶ意欲に関するリアルな状況が明瞭かつ簡潔に描かれています。これから現在の教育(改革)の動向について学びたいと考えている方にお勧めの1冊です。(372.1//AS)



短期大学部:中村ますみ助教授推薦

『0歳児がことばを獲得するとき～行動学からのアプローチ～』(中公新書,1136)

『子どもはことばをからだで覚える～メロディから意味の世界へ～』(中公新書,1583)
(正高信男著/中央公論新社)

タイトルで結論を言い切っている潔さと副題に心奪われ手にとったのが『子どもは...』。ことばという高度な伝達手段を獲得する過程におけるさまざまな要素を、音楽との接点をヒントに分析していく。その後読んだ『0歳児がことばを...』とともに、人(特に子ども)とかかわるときに「音楽にたずさわっていることが強い味方になりうる。」と実感した2冊である。(801.04//MN)

文庫・新書は手軽に持ち運べるという利点から、貸出も多い資料です。古典から近代まで、文学もいろいろありますが、先生方が紹介してくださったようなものもあります。ゆっくりと文庫架を歩いてみましょう。



あなたのお悩み解決し隊!!



第2回：CD-ROMで悩みを解決！～判例体系編～

判例体系とは

判例（過去の裁判において、裁判所が示した判断）を論点ごとにまとめたものです。



判例体系 CD-ROM のすごいところは現行法規と相互にリンクしているところ!!

現行法規の全文から、該当する判例体系の見出し一覧にジャンプすることもできます。

現行法規 CD-ROM



参照法令の法条名をクリックすると、現行法規にジャンプし、判例の参照条文の注記を見ることができます。

今までは、追録等を1つ1つ探していたのが、このCD-ROMで多くの情報を簡単に探し出すことができます。検索時間も短縮できて、情報も豊富! 素晴らしい機能が満載ですね。

判例体系とリンクはしていませんが、判例体系の判例評釈を参考に検索すると、評釈論文の書誌情報も見ることができます。



平成18年度より判例体系・現行法規・法律判例文献情報はデータベース化する予定です。判例体系から法律判例文献情報へのリンクも可能になり、より使いやすくなります。乞うご期待!!

1. 判例体系の操作方法と現行法規とのリンクについて



キーワードを入力し、検索を押すと一覧が出ます。一覧から見たい情報を選択します(複数選択可)。



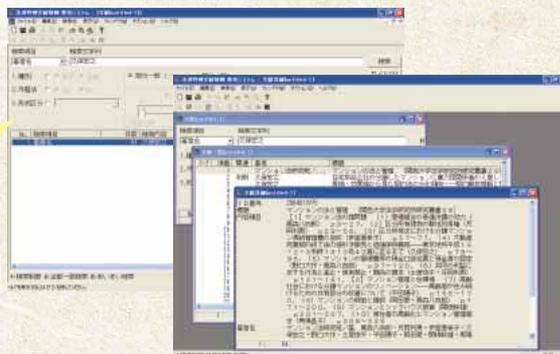
本文

本文と理由を見ることができます。



事件名、判決の要旨を見ることができます。

2. 法律判例文献情報について

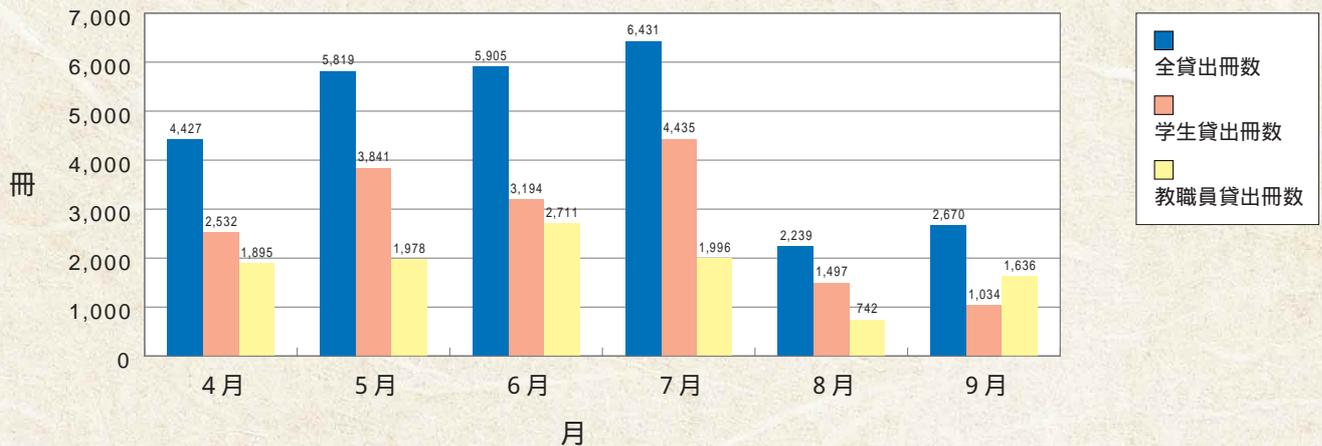


Library Report

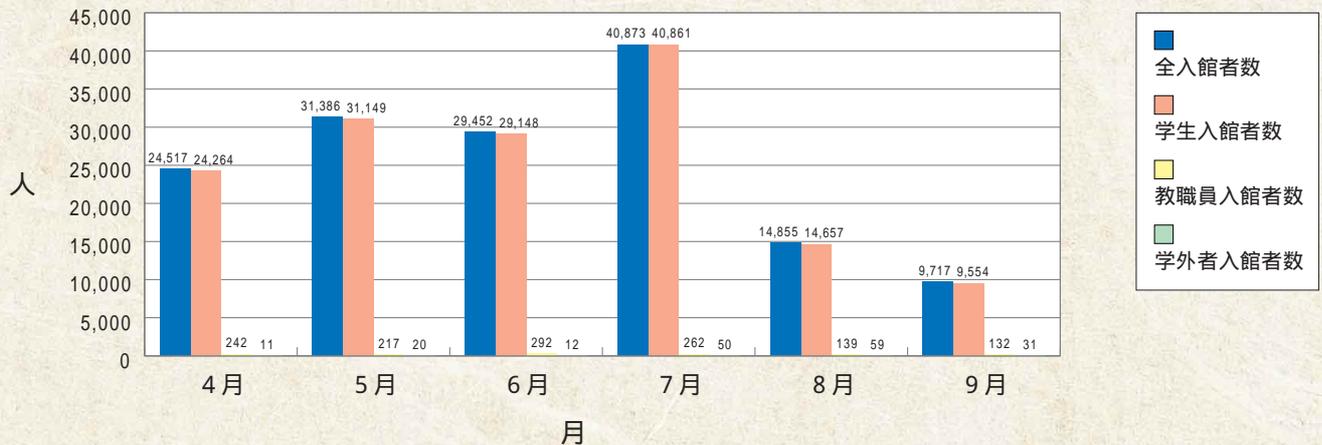


2005年度前期利用統計(入館者・貸出冊数統計)

2005年度前期貸出冊数グラフ



2005年度前期利用者数グラフ



図書館ガイダンス報告

学部ごとに実施していた新入生オリエンテーションを、今年度から学科ごとの新入生ゼミガイダンスに変更しました。パワーポイントを使い1限90分の授業形式で、館内紹介や情報検索について説明を行いました。4/19～28までの期間、短期大学部・大学院あわせて1085名の参加がありました。初めての試みで、反省点も多々ありましたが、今後更に充実させていきたいと思えます。また、新入生向け図書館ツアーや3・4年生を対象にしたデータベース検索のガイダンスでは330名が参加し、学生は真剣に耳を傾けていました。



Library Report

新規データベースについて

今年度の新規データベースです。図書館ホームページより利用できます。

- ・ **Web of Science** : 論文の引用関係を効率的に追うことのできる引用文献索引データベース
- ・ **eol DB タワーサービス** : 全国証券取引所および JASDAQ 上場企業の有価証券報告書データベース

図書館学生モニター活動報告

図書館ではより良いサービス提供を目指して昨年度「図書館学生モニター」を募集し、現在5名で活動しています。月2回程度の会議を行い、図書館の設備、サービスについて検討しています。今回、新たに図書館ホームページ内に学生モニターのコーナーを開設しました。「おススメ図書」の紹介、毎回の活動内容を綴る「モニター日誌」など、随時更新中ですのでぜひご覧ください。図書館の新しい風、モニターさんの今後の活動にご期待ください。

<http://www.iuk.ac.jp/iuklibrary/monitor/index.html>

司書講習終了報告

今年で10回目を迎える、「平成17年度文部科学大臣委嘱司書講習」が7月～8月の2ヶ月間にわたり開催されました。県内のみならず東京・福岡・熊本など遠方からも参加し、学生や教員・公共図書館で働く図書館員など様々な職種や年齢層の42名の受講生が集いました。講習は、図書館の基礎的理論を始め、情報収集や整理技術、資料についての知識や図書館サービスなどを学び、司書資格修得に向け研鑽に励んだ暑い夏でした。



新スタッフ紹介

本年4月より、図書館に勤務することになりました。ある公立大学の大学院博士課程に所属していましたが、ご縁があり鹿児島で過ごすことになりました。専門は、経済学です。現在は資料整理が担当で、洋書の整理と雑誌の受入れと整理の仕事を行っています。これまでにいた大学の図書館と違うところもあり、着任当初は戸惑うことも多かったですが、今後、自分が持っている知識で少しでもお役に立てれば、と思っています。

情報整理係 中西 康信

編集後記



お鍋や家々の灯りが恋しい季節となりました。さて、昨年からはじめた“新しいこと”。今年は「図書館を語る会」を中心に、モニターさんの活動や、新入生ゼミガイダンス・図書館HPの充実にむけ取り組みました。こうした様々な取り組みが、“継続は力なり”の言葉の如く、今後の図書館サービスの向上に繋がっていかれたらと思います。最後にお忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様、本当にありがとうございました。また表紙を飾る写真は、大学広報センターの岩瀬尚子さんよりご協力いただきました。(M・O)

図書館だより - 鹿児島国際大学図書館報 - 第26号 2005年12月15日発行

鹿児島国際大学附属図書館 〒891-0191 鹿児島市下福元町8850

TEL:099-263-0732 FAX:099-261-1198 E-mail:maittosyokan@ofc.iuk.ac.jp

(URL) <http://www.iuk.ac.jp/iuklibrary> (携帯URL) <http://iuk02.iuk.ac.jp/nbp/index.html>